

1 研究主題

まんのう町への誇りや外国（人）への関心をもち、広い視野で異文化を理解するとともに、国際社会に生きる人間として望ましい態度や能力を育てる

2 研究の具体



- 知 ① 英語科において月1回の**オンラインでの英会話**をで実施し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。
- 知 ② 社会科、美術科、英語科で**公開授業を実施**し、大学の先生から指導を受け、授業づくりの視野を広げる。まんのう町について情報を収集して課題を把握し、改善策を考える時間を位置付ける。
- 繋 ③ 人権をテーマとした年間2回の縦割り学級編成による授業で、**異学年の生徒との意見交流**を通して、自分の考えを深めることができるようにする。
- 繋 ④ 町の海外派遣事業を利用し、**シンガポールでの生活やコミュニケーションを体験**し、まんのう町の文化を現地の人々に紹介したり、現地で学んだことを集会で全校生に共有したりする。
- 広 ⑤ **公民館でのボランティア活動**に参加した際に、中学校で学習したことを地域に広める。また、ボランティア活動に参加して学んだことを全校生に発表する機会を設定する。

3 研究の検証及び改善の手立て

○ オンライン英会話に向けて英語の語彙、表現、文法等を主体的に調べる生徒が増えた。また、英語科の定期テストの英作文の問題では、自分の知っている簡単な単語に置き換えて表現する生徒が増え、無解答が減少した。

○ 「誘われたからボランティア活動に参加してみたが、人と関わる喜びや自分の成長を感じることができた。来年度も参加したい。」と振り返り、積極的に社会に参画しようという態度を身に付けた生徒が数十名いた。

外国の人と友達になったり 外国について知ったりしたいか

79.6 +2.0

住んでいる地域のことについて 外国の人に知ってもらいたいのか

81.8 +3.0

▲ 外国の人々と理解し合うには外国語を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能、外国語を活用して表現したり伝え合ったりする力を身に付けることが必要不可欠である。

▲ 自分の調べたことをまとめた資料を使って他者に伝える際に、下を向いて原稿を見ながら読むだけの生徒が多かった。すべての教育活動を通して、生徒が発表する機会を増やし、他者への伝え方について教師の粘り強い指導も積み重ねたい。

自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章の組立などを工夫して発表しているか

68.1 +2.4

将来の夢や目標を持っているか

68.5 -4.2

枠内の数値は令和6年5月の校内アンケートとの比較